

2017年度 事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの健全な心身の育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業
- (5) 共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 「第33回全国小学生陸上競技交流大会」の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5、6年生を対象に都道府県代表を決定する地方大会と、決勝大会を後援しました。

1985年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートし、毎年約15万人の選手、指導者が参加しています。本大会からオリンピックの代表選手が数多く誕生しており、2016年開催のリオデジャネイロオリンピックにおいても、男子4×100mリレーで銀メダルを獲得した飯塚翔太選手、山縣亮太選手の2名も、本大会の出場経験者となります。

本大会は、小学生アスリートとともに歩み、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着しており、日本陸上競技界の底辺の拡大に大きく寄与していると高く評価されています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：スポーツ庁 他

【実施日】 ① 地方大会 2017年6月～7月
② 決勝大会 2017年8月18日(金)～19日(土)

【場 所】 ① 地方大会 47都道府県の競技場
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約150,000人(選手、指導者、関係者)

【大会内容】 47都道府県の地方大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。

決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、80mハードル走、走幅跳、走高跳、ジャベリックボール投、4×100mリレーなど

が実施され、その模様はNHK 教育テレビ(Eテレ)にて全国放送されました。
5年男子100m走、女子80mハードル、男子ジャベリックボール投で大会新記録が誕生するなど、熱戦が繰り広げられました。

【事業費】 105,859,008円

(2) 「第20回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会」の事業後援

発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、全国の小学5、6年生を対象とし、47都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加するクロスカントリー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。

1999年からスタートしました本大会の出場者から、2012年開催のロンドンオリンピックには佐藤悠基選手が、また2016年開催のリオデジャネイロオリンピックには鈴木亜由子選手が長距離の代表として出場しています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：スポーツ庁 他

【実施日】 2017年12月9日(土)～10日(日)

【場所】 池田市民文化会館(大阪府池田市)、万博記念公園内特設コース(大阪府吹田市)

【参加者数】 885人(一般タイムトライアル参加者も含む)

【研修内容】 ・小学生の練習によるからだへの負担について
・ジュニアアスリートの食事の基本、「P・F・Cバランス」について
・発育発達に応じた、さまざまな運動をすることの大切さについて

【大会内容】 ・クロスカントリーリレー(1区間1.5km×6区間 男女交互のリレー)
・友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 18,948,234円

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰

子どもたちの健全な心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 2017年8月19日(土)

【事業費】 第33回全国小学生陸上競技交流大会事業費に含む

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を、2015年9月にスタートしました。

本プロジェクトでは、世界のトップ選手が集う環境の下、大きな刺激を受けながら、互いに切磋琢磨し、海外のメダリストを育てたコーチに教えを乞い、最新鋭の設備の中で、練習に励みます。海外での大きな経験が、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、オリンピックでのメダル獲得へつながると期待しています。

2016年8月、リオデジャネイロオリンピックにおいて男子4×100mリレーで銀メダルを獲得し、2017年9月、男子100m走において日本人初の9秒台となる9秒98の日本新記録を樹立し

た桐生祥秀選手も、本プロジェクトに参加しました。

2017年秋、選手個々のスケジュールに応じて、本プロジェクトが柔軟に活用できるよう、年間を通じて募集を受け付ける形に変更しました。

【支援内容】

オリンピックなど国際大会でメダル獲得を志す満16歳以上の実業団に属していない個人を対象とし、学校の長期休暇を活用した海外合宿、遠征において、旅費、遠征費、コーチフィー等を助成します。

【2017年度支援対象者】

● 2018年1月～2018年4月

(年齢は活動開始時)

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
北川 貴理	21	400m	2月5日～2月22日	18	ジャマイカ
橋岡 優輝	19	走幅跳	1月23日～2月22日	31	アメリカ
山下 潤	20	200m	3月10日～4月10日	32	ニュージーランド
池川 博史	19	やり投	2月17日～2月28日	12	ドイツ
ウォルシュジュリアン	21	400m	2月5日～2月22日	18	ジャマイカ
關 颯人	20	5,000m	2月3日～4月3日	60	アメリカ
竹之内 優汰	19	三段跳	2月7日～3月5日	27	オーストラリア
田上 駿	20	十種競技	2月24日～3月16日	21	オーストラリア
館澤 亨次	20	1,500m	2月3日～4月3日	60	アメリカ

【事業費】 8,992,376円

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

2017年度は、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援しました。国内開催の国際大会や、全国大会をはじめとする主要な大会から成績優秀者を選抜して行うナショナルジュニアキャンプ、トップジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。2017年度は、数々の一流プレーヤーを育てたボブ・ブレット氏をコーチに招き、子どもたちを熱く指導しました。

【参加者数】 ・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 216名 (年28回開催)
・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 87名 (年3回開催)
・海外遠征・合宿 選手・指導者 59名 (全米オープンジュニア大会を含む14回)

【事業費】 32,400,000円

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

2010年5月、長野県小諸市に設立した「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成、指導者の養成を行い、アウトドア活動の普及を図りました。

1. 「第16回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、応募総数247件の中から、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体を選考し、実施支援金として各10万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰しました。1月に開催した表彰式では、受賞団体のユニークな活動を発表し、他団体の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図っています。

なお、本年度助成した団体の活動には、延べ約21,000人が参加しています。

【後援】文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

◆ 学校部門

文部科学大臣賞（副賞：100万円）

団体名：伊那市立長谷中学校3学年（長野県）

企画名：中学生にできる地域おこし ～伝統野菜で長谷をHOTに～

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：上越市立大手町小学校（新潟県）

企画名：2頭のポニーとみんなでぐんぐん ～年間を貫く体験活動と
言語活動で自分自身や友達の頑張り、成長に気付く～

◆ 一般部門

安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：しまなみ野外学校／（株）今治・夢スポーツ（愛媛県）

企画名：島の冒険キャンプ9泊10日

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：日本宇宙少年団 南種子町宇宙科学分団（鹿児島県）

企画名：宇宙のまちキャンプ2017 ～本物の感動がここにある！～

◆ トム・ソーヤー奨励賞（学校・一般部門共通）（副賞：20万円）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画に贈呈しました。

① 団体名：京都市立朱雀第四小学校（京都府）

企画名：こん虫パラダイス

② 団体名：大津市立葛川少年自然の家（滋賀県）

企画名：冒険塾2017 30周年記念ビワイチスペシャル

③ 団体名：熊本県立青少年の家（熊本県）

企画名：あまくさ無人島キャンプ

◆ 努力賞（学校・一般部門共通）（副賞：10万円）

① 団体名：長浜市立塩津小学校（滋賀県）

企画名：「We Love しおつIV」

～自然豊かな塩津学区と「ふるさと公園」を舞台に～

- ② 団体名：たつの市立新宮小学校 6 年生（兵庫県）
企画名：キラ☆まち日記（ダイアリー）～メイ・ジンからのおくりもの～
- ③ 団体名：自然と文化の森協会 猪名川キッズクラブ（兵庫県）
企画名：子どもも、まちの主人公 ～猪名の里の自然と味覚を楽しもう～
- ④ 団体名：ネイチャークラブ（兵庫県）
企画名：命の環境を学ぶ自然教育
- ⑤ 団体名：ウェットランドフォーラム（福岡県）
企画名：和白干潟の子ども調査隊・ガタレンジャー
- ⑥ 団体名：(独) 国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家（福岡県）
企画名：平成 29 年度 国立夜須高原青少年自然の家 教育事業
「夜須高原長期チャレンジキャンプ」
～非日常の生活、自然・直接体験にトライしよう～

【表彰式】開催日：2018 年 1 月 27 日(土) 安藤百福発明記念館 横浜 5 階ホール

来賓：神山 修 氏（文部科学省 大臣官房審議官）

柏崎 誠 氏（横浜市 副市長）

講演会：「自然と取っ組み合いで遊ぼう！」

本田 亮 氏（環境マンガ家、カヌーイスト）

【事業費】13,159,397 円

2. 安藤百福センター事業

安藤百福センターを拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成や、自然体験活動を推進するさまざまな活動を通して、日本における自然体験活動の中心的な役割を果たし、アウトドア活動の普及、推進に努めました。

近年、ロングトレイルの全国的な拡がりや、8 月 11 日祝日「山の日」制定など自然体験活動に対する関心の高まりから、NPO 法人日本ロングトレイル協会や一般財団法人全国山の日協議会と連携し、全国的なロングトレイルや山歩きの普及、振興や安全対策事業の推進等を支援するため、2017 年 7 月、内閣府に変更認定を申請し、本事業の拡大を実施しました。

青少年教育の有効なツールのひとつであるロングトレイルを普及、振興し、子どもたちが安心して山歩きを楽しめる環境づくりを支援することで、自然体験活動の更なる振興、活性化を図ります。

(1) 自然体験活動振興事業

子どもたちを身近な自然に案内する指導者の養成や、自然体験への興味を喚起する講座、セミナー等を実施しました。

【2017 年度 主な事業】

- ・指導者養成のための研修会、講座、シンポジウム等の開催

公益社団法人日本山岳ガイド協会が主催する自然ガイドのための危急時対応技術講習会など安全管理に関する研修会、および公益社団法人日本山岳会が主催する登山教室指導者養成講習会を共催しました。

また、NPO 法人自然体験活動推進協議会の加盟団体など、全国のアウトドア活動 40 団体が安藤百福センターを利用して、各種研修会を実施しました。

- ・自然体験活動への興味を喚起し、自然体験活動を活性化する施策の実施
既存の枠にとらわれない自由な発想のツリーハウス7棟の運営、管理するとともに、季節に応じたトレッキング講座等を主催しました。

(2) ロングトレイルの普及と安全対策事業への支援

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林、キャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩くこと」が基本となります。当財団は、NPO 法人 日本ロングトレイル協会、一般財団法人山の日協議会と連携し、ロングトレイルの普及・振興のための事業を支援し、安心して自然体験が楽しめるよう安全対策事業を支援しました。

また、安藤百福センターでは、野外研修フィールドとして独自に「浅間・八ヶ岳パノラマトレイル」を運営、管理しており、2017年6月、千曲川の浸食から生まれた断崖などダイナミックな景観がたっぷりと味わえ、適度なアップダウンも楽しめる「千曲川コース」を新たに開設し、「浅間・八ヶ岳パノラマトレイル」は5コース・総距離40kmとなりました。

【2017年度 主な事業】

① ロングトレイルの普及・振興活動

- ・全国のトレイル運営機関、諸団体への情報提供と交流促進
- ・全国のトレイルに関する広報活動およびトレイルを活用した観光促進
- ・道標、地図等の整備・トレイル運用基準の検討
- ・富士山、浅間山、那須岳で実証実験が行われたスマート山岳道標の設置、登山者自動位置確認システム (Mountain Automatic Positioning System=MAPS) の支援
- ・トレイルを活用した青少年健全育成や生涯スポーツ促進

② 「第5回ロングトレイルシンポジウム」の共催

開催日 : 2018年2月24日(土)

参加者数 : 約110名

後援 : 環境省、観光庁、長野県、小諸市、一般財団法人全国山の日協議会 他

特別講演 : ・「Why Long Distance Trails are Important to the World」

ガレオ・セイントツ氏 (Galeo Saintz : ワールドトレイルズネットワーク 会長)

・「オリンピックレガシー」

水野 正人 氏

(ミズノ株式会社 相談役会長、日本オリンピック委員会 名誉委員)

講演 : 「観光先進国への取組 ～スポーツツーリズムを中心に～」

斎藤 永 氏 (観光庁 観光地域振興部 観光資源課 新コンテンツ開発推進室長)

パネルディスカッション :

テーマ : 「ロングトレイルにおけるインバウンドへの課題」

パネリスト : ・ルーカス B.B 氏 (Lucas Badtke-Berkow : PAPERSKY 編集長)

・近藤 謙司 氏 (国際山岳ガイド)

・高野 賢一 氏 (NPO 法人信越トレイルクラブ 事務局長)

・節田 重節 氏 (NPO 法人日本ロングトレイル協会 会長)

コーディネーター :

中村 達 氏 (NPO 法人日本ロングトレイル協会 代表理事、

安藤百福センター長)

③ その他主催・共催事業

- ・ロングトレイルのつくり方講座（主催／年3回開催）
- ・大人のトレイル歩き旅講座（主催／年3回開催）
- ・「山の日」記念事業「みんなでパール浅間を見に行こう！」（主催）
- ・ロングトレイルハイカー入門講座（共催／年5回開催）

【事業費】129,272,694円

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された2002年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【URL】 <http://www.shizen-taikken.com>

【事業費】7,322,810円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第22回安藤百福賞」表彰事業

食創会は、1996年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、安藤百福がインスタントラーメンを発明し新しい食文化を創造したように、新しい食品の開発並びに食科学の振興に貢献する研究者、開発者ならびにベンチャー起業家を表彰するものです。大賞や優秀賞のほか、発明発見奨励賞は、大学等に所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

2016年度より、小泉純一郎元内閣総理大臣を食創会会長に迎え、食文化の向上に貢献する事業に取り組み、今回で第22回目を迎えました。

【後援】文部科学省

【表彰者】●大賞（副賞：1,000万円）

- ・坂口 志文 氏（大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授）
「制御性T細胞の発見と免疫システムに関わる食科学研究の基盤構築」

●優秀賞（副賞：各200万円）

- ・原 博 氏（北海道大学大学院 農学研究院 特任教授）
「消化管ホルモンを介した食品ペプチドの新たなメカニズムによる疾病予防」
- ・吉原 良浩 氏（理化学研究所 脳科学総合研究センター シニアチームリーダー）
「食べ物の匂いへの誘引行動を司る嗅覚神経機構に関する研究」

- 発明発見奨励賞（副賞：各 100 万円）
 - ・五十嵐 啓 氏（カリフォルニア大学アーバイン校医学部
神経科学・解剖学科 助教授）
「食の感覚を支える脳の香り記憶機構の研究」
 - ・樽野 陽幸 氏（京都府立医科大学大学院 医学研究科 細胞生理学 講師）
「甘味・旨味・苦味に関わる味覚神経伝達の分子機構の解明」

【表彰式・記念講演会】

開催日：2018年3月12日(月) ホテルニューオータニ（東京）

来賓：齋藤 健 農林水産大臣

大賞受賞記念講演：

「制御性 T 細胞の発見と免疫システムに関わる食科学研究の基盤構築」
坂口 志文 氏（大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授）

【研究助成】 2015 年度食創会において、第 20 回を記念して、2015 年度受賞者の中から、さらに研究・開発の進展が期待される研究・開発者を対象に、研究助成を行うことが決議されており、当該研究・開発者に研究助成を実施しました。

【事業費】 44,279,063 円

■公 4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与しています。

1999 年 11 月、インスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館した「インスタントラーメン発明記念館」は、2017 年 9 月、財団創設者名を冠した「安藤百福発明記念館 大阪池田」に変更しました。

また、これに併せて、2011 年 9 月、横浜市みなとみらいに開館した「安藤百福発明記念館」の名称も「安藤百福発明記念館 横浜」に変更し、これまで以上に両記念館の魅力を、相乗的かつグローバルに発信するとともに、安藤百福の思いを具現化してまいります。

1. 安藤百福発明記念館 大阪池田（池田記念館）の運営

2017 年度の来館者は 77 万人を超え、開館以来の累計来館者は 815 万人を突破しました。インバウンドによる来館者増のほか、総合学習や修学旅行など学校教育の場としての利用があり、2017 年度は 824 校、約 37,600 人の小中学生や高校生が来館し、体験型食育ミュージアムとして高く評価いただいています。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

敷地面積：4,172 m²

延床面積：3,423 m²

【来館者数】 2017 年度来館者数 778,000 人（累計来館者数 8,155,000 人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 56,000 人

マイカップヌードルファクトリー 520,000 食

【事業費】 181,860,534 円

2. 安藤百福発明記念館 横浜（横浜記念館）の運営

横浜記念館は、「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想や創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなどを子どもたちに伝えています。

2017年度は1,614校、約72,100人の学校団体の利用がありました。

【施設概要】 所在地：横浜市中区新港2丁目3番4号

敷地面積：4,000 m²

延床面積：9,883 m²

【来館者数】 2017年度来館者数 1,082,000人（累計来館者数6,869,000人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 92,000人

マイカップヌードルファクトリー 822,000食

カップヌードルパーク 95,000人

ワールド麺ロード 415,000食

【事業費】 502,255,987円

■共通、青少年の健全育成を目的とする支援事業

1. 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018」（主催：スポーツ庁他）の支援

「スポーツが変える。未来を創る。～Enjoy Sports, Enjoy Life～」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018一人・スポーツ・未来」に協賛しました。

【開催日】 2018年2月2日（金） グランドプリンスホテル広島（広島市）

【協賛金】 500,000円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。また、池田記念館においては、物販業務を受託しました。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 324 m²（館全体の延床面積に占める割合：約9%）

② 横浜記念館 115 m²（館全体の延床面積に占める割合：約1%）

【事業費】 36,648,765円

以上